

## 第4回「富士見丘小学校教育環境懇談会」概要

<b>日時</b>	2014年1月21日（火） 10:00-11:40
<b>会場</b>	富士見丘小学校 視聴覚室
<b>出席者</b>	委員   9名 事務局   11名
<b>配付資料</b>	第3回議事録 資料1 富士見丘小学校教育環境懇談会 中間のまとめ（案） 資料2 蚕糸の森公園運動場及び杉並第十小学校運動場配置図 参考資料1 富士見丘小指定通学区域の児童数 参考資料2 富士見丘小学校建替パターンの比較検討案（整理表）[修正版] 杉並区の小中一貫教育（リーフレット）
<b>議事次第</b>	1 開会・連絡事項 2 議題（資料説明・意見交換） ・中間のまとめについて ・その他 3 閉会

## 第4回「富士見丘小学校教育環境懇談会」議事録（要旨）

（発言者敬称略）

<b>1. 開会・連絡事項</b>	
学校支援課長	傍聴希望者の申し込みはなかった。
<b>2. 議題：懇談会中間のまとめについて（資料説明は略）</b>	
議長	今日は中間のまとめを中心に意見交換したい。前回、いずれ改築する場合に、今の場所で行う場合と、富士見丘中学校の近隣に移転する場合とを比較しながら意見交換を行った。前回の最後に、これまでの議論を参照しながら、中間のまとめをつくってもらうように依頼して、今日の資料が用意されている。
議長	資料2の杉十小の例では、運動場に線が引かれているが、空間が区切られているわけではなく、帳簿上の整理と理解してよいか。
新しい学校づくり係長	その通りだ。管理の区分である。運動場のうち、学校用地の部分が約2,700㎡、公園用地の部分が約5,000㎡、合わせて約7,700㎡の運動場である。
<b>（1）議論の進め方について</b>	
議長	次回が最終回の予定なので、今日、できるだけ皆さんの意見を出してもらい、次回、それを懇談会のまとめという形のたたき台にとりまとめ、最終的な議論をしたい。ただし、中間まとめの位置づけにもあるように、結論としてこうだと言いきるのではなく、大きな方向性がこのように議論されたという形でまとめることにする。十分な時間をかけなければいけない議論だし、地域や保護者、中学校との関係も出てくるので、これから数年をかけての議論になるだろう。その議論の方向性くらいはこの懇談会でまとめておきたいと考えている。今回の整理は、懇談会としての頭の整理だが、最終まとめは関係者や区民に読んでもらえるものにしなければいけないので、理解に必要な資料などは添付するようにしてもらいたい。
議長	区として、来年度以降の考えがあるか。
新しい学校づくり係長	今の時点ではこうと言えないが、議論の方向性によっては新たな組織を立ち上げる形で、より具体的な検討をしていくことも必要ではないかと考えている。
議長	このメンバーの懇談会は次回で終わるという前提に立つと、来年度以降の検討で配慮してもらいたい事柄なども出していけるとよい。
<b>（2）富士見丘小学校を取り巻く問題等について</b>	
<b>（2）-①学校・学童クラブ・地域コミュニティ</b>	
委員	上高井戸1丁目に居住している。世田谷区は学童保育を学校内に持っているらしい。富士見丘小学校の場合、学童クラブは、放射5号線を越えてさらに遠い方へ行かなければならず、帰りが大変なので、世田谷区の小学校に通ってもよくなったと

	聞いている。直下型地震などがあった時に、地域の人たちが一番助け合える関係だ と思うので、一人でも多くの児童が富士見丘小学校に通ってもらえるとよい。
議長	自治活動やいろいろな防災問題も含めると、子どもだけどこかへ行っているのでは なく、杉並区立の学校に通うことで、子どもからお年寄りまで一緒にいる地域が つくれて望ましいという意見があったこともうまく書けるとよい。とても大事なこ とだ。子どものことだけではなく、地域のコミュニティの問題だ。
議長	あまり表に出てこないが、学童保育の施設が魅力になっているということもある のかも知れない。状況認識の中で、学童保育の問題なども補足できるかも知れない。
学校教育担当部 長	杉並区も施設再編整備の考え方としては、学童クラブを学校の中に入れようとい う方向であり、それはひとつの解決の方向だと思う。
学校整備課長	現在、9校の小学校で学童クラブを校舎内か敷地内でやっている。新しく学校をつ くっていく場合には、学童クラブを校舎内か敷地内につくっていく方針を決めた ところだ。学童クラブと児童館の関係についてはいろいろな考え方があるが、学校 と学童クラブが同じところにあると安全だという意見も多く、これからは学校と学 童クラブの一体的な運営を考えていくことを決めたところだ。
委員	区の施設再編の中で、学校内に学童クラブを置くというのは実際的な考え方だと思 うが、児童館には「0歳から18歳まで」のような考え方がある。未就学の小さい 子どもから中高生まで、縦の交流もあるのが児童館の機能だ。児童のことだけで言 えば、学童クラブは学校内にあった方が安全面ではいいが、その他の教育環境も考 えた時には、小学校だけ便利にしてよいのかということもあるかも知れない。
委員	現状の環境を考えると、世田谷区に流出するのは仕方ない部分もあるし、学童保 育が学校内にあるのとないのでは選択肢が違ってくるので、きれいな校舎で学童が 併設されている方を選ぶのは理解できる。働いているお母さんが増えているので、 今後、学童保育を必要とする子どもが増えると考えれば、校内にあった方がよいの ではないかと思う。児童館としての機能としてみると、縦の交流が取れないように 思えるが、放課後に遊びに行く児童館と考えれば、学童クラブがそこになくても、 交流を取る場所として、例えばクッキング教室を開くとかいろいろな方法で集める ことはできると思うので、学童クラブは別に考えてもよいのではないかと思う。
<b>(2) -②児童数の将来的な見通し</b>	
委員	杉並区は、学区域の学校へ通わせようという方針になってきた。例年、新入生は 50人前後だったのが、次年度はもう少し増えそうだ。世田谷区が学校変更を承諾 している部分には関われないと思うが、例えば、高井戸第二小学校が、久我山1・ 2丁目から通う子どもをどれくらい受け入れるのか。区の方針によって、これまで 高二小に行っている子どもたちをあまり取らないということになると、子どもの人 数はだいぶ増えるのではないか。富士見丘小学校は各学年2学級で来ているが、こ れが3学級になっていく可能性がある。今の未就学児がどの程度いるかという数字 を見た時に、児童数がどんどん増えていくことが考えられる。今はわりとゆとりが あり、少人数教室や備蓄倉庫なども確保できているが、学級数が増えていくとそう

	も行かなくなっていくだろう。場所はどこであれ、校舎を建て替える時は、12学級よりはもう少し大きい学校のレベルを考えておいた方がいいように思う。
議長	単純に0-4歳児が推移するとどうなるかという数字は出しているだろうが、他校が受け入れる政策・制度的な考え方が変化した時にどうなるかというのは、なかなか難しい問題だと思うが、区として何か考えはあるか。
学校支援課長	本来は富士見丘小学校の指定通学区域だが、学校希望制を使って高井戸第二小学校に通っている子どもが久我山1・2丁目にいると思う。学校希望制は平成27年で終わるので、富士見丘小学校に戻ってくる子どもは多くなるだろう。児童数は増えていくのではないかという推測は成り立つ。指定校変更制度があるので、すべての子どもたちが戻ってくるというわけではないが、かなりの数が戻ってくる可能性はあり、その場合には教室なども対応していく必要がある。
委員	学童クラブも校舎内に入ってくるとなれば、保護者にとって、特に初めて子どもを就学させるという保護者にとっては、すごく魅力的になるだろうと思う。
学校支援課長	児童数の見通しは、A案・B案に共通して出てくる問題だ。
<b>(2) -③通学路の問題</b>	
副議長	通学路は、今でもかなり問題を抱えている。富士見丘小学校に通いやすくしてほしいということなので、現在の校地が、通学区域における位置としてはバランスが取れているという表現はおかしい。距離的には中心にあるが、環8や京王線などを越えてくるという障害が大きく、だから他校に通っている子どもが多いというのが実情だ。現在も問題があるということを指摘しておく方がよいのではないか。
委員	甲州街道の南側で環8の東側だと甲州街道を渡り、環8を渡り、今度はここで放5を渡らなければならない。通学路の整備もある程度明示する。立体交差であればそこを渡れば大丈夫だが、甲州街道も環8も平面交差で、杉並区でも交通量の多い上高井戸の交差点を渡ってくる人たちもたくさんいる。何らかの文章で、そういうことを書いておいてもらいたい。
学校支援課長	通学区域の中心にはあるが、通学に障害のあるエリアもある点を整理したい。
委員	もともとこの学区が持っていた課題、変則的な形の学区や区境にあるがゆえのいろいろな問題を明らかにした方が、区民の理解は得やすいと思う。五者協があることが付記されているが、五者協とは何かということも説明して、そもそもこの地域は環境に関しては頑張ってきていたことだとか、そういう課題のある場所だということを使った上で、この機会なので、そこも含めて検討に載せたというふうにすると、区内の他の地域の人たちにも大変なところだとわかってもらえるように思う。富士見丘小学校の置かれた立場を丁寧に説明し、現状を理解してもらいたいことが、まとめの中に盛り込まれるとよいと思う。
学校支援課長	最終まとめには資料もつけ、本文にも盛り込めるところは盛り込んでいきたい。
新しい学校づくり係長	考え方としては、富士見丘小学校が置かれてきた背景があり、その中からこういう動きが出てきたということもあるわけだから、最初の方で前段的に背景として整理し、区境にあるがゆえの世田谷区への流出もあるということも出した上で、そ

	こから最近の状況の変化を説明するような構成も考えられる。
議長	今、迫っている3つの大きな変化以前に、こういう状況があるということ、順序はともかくとして、きちんと指摘しておいた方がよい。
副議長	移転した場合、さらにもう少し通学が困難になるとすると、通学バスのようなものを検討してほしいと新たに投げかけることもできる。そういうことも検討課題として挙げておくこともできると思う。通学路の検討は大きな課題だ。
委員	富士見ヶ丘通りの問題も絡んでくる。B案であれば、一部分であってもセットバックできるので助かる。
副議長	商店街の通学が大変だから他校に行っているということもあるだろうか。
委員	富士見丘小学校の場合、富士見ヶ丘通りを通学路と認めていないが、こちら側から久我山小学校に行く場合はあの通りを通らざるを得ない。
副議長	B案の記述の3点目について、広域避難場所として高井戸公園と小中学校の関係はよくなると思うが、そのことと、続けて書かれている富士見ヶ丘通りの交通安全対策や環境等の影響の話は関係がない。むしろ、4点目のセットバックの話として整理した方がよい。また、長年、課題を抱えてきたところなので、周辺まちづくりへの貢献も期待できるというよりも、配慮すべきであるというような表現の方がいいのではないか。
議長	その辺りも地元の声として、一部でも富士見ヶ丘通りの歩道ができることは長年の懸案の改善につながるということに触れておく。
<b>(2) -④中学校はじめ関係者との話し合い</b>	
委員	保護者には、懇談会について軽い感じの案内しかしていない。公園のことなども含め、いろいろな噂が保護者の耳に入っているような感じだ。先のことなので、現在の保護者は、自分たちに降りかかってくる感覚では受け止めていない。報告書ができれば、小さい子どもがいる保護者などには浸透していくかも知れない。
委員	学校改築は、現在、在籍している子どもたちが卒業してかなり経ってからの話だ。もう少し未来のことだと認識して、今後は、そういう人たちの意見も聞いてもよいのではないか。学校の将来像は、今の人数や状況だけからはなかなか簡単には決められないように思う。別の視点からの検討も必要ではないか。幼児の保護者や中学校の人たちとはいっさい話し合いをしていないが、小中一貫教育のようなことを考えれば、中学校の考え方も聞かなければいけないだろう。この懇談会のまとめとしては、改築比較案には可能性と一長一短があるということを通不足なく示すことが役割ではないか。あまりにも擦り合わせしなければならぬ他の要素が多すぎる。公園や道路のことも区だけでは完結しない、将来的なことなので、今、小学校に関わっている人の考え方だけでは決められない気がする。
学校教育担当部長	A案の方向とした場合、B案の可能性を検討することはない。B案を大きな方向にしておけば、両案を含んでいる。当然、中学校との話し合いをしなければいけないし、中学校側が考える機会を提供する必要はあるだろう。それには、いったん企業用地を確保してくれと言った方が、その議論ができる。プラスマイナスを細かく

	評価するということは、これからやらなければいけないが、大きな方向性をA案だとすると、B案の選択肢はなくなってしまう感じなので、大きな流れとしては可能性を広げておく方がよいのではないかと。今の意見は、そういう話と受け止めた。
委員	小学校と中学校の先生の交流は増えているようだが、こういう話もしているか。
委員	富士見丘中学校の校長先生とは、ランドデザインがあるという話はお互いに知っているが、それ以上に突っ込んだ話はしたことがない。小中一貫の話は高井戸小学校も含めてやっているが、移転については、ランドデザインの範囲の話である。
委員	結論でなく大まかな方向性ということだが、仮にB案を示す場合、中学校とはいっさい話をしないままに、この懇談会でB案を方向性としてもよいものだろうか。
委員	小学校の立場としての意見ということではよいのではないかと。
議長	中学校との話し合いや、将来の保護者たちとの話し合いは、A案であろうとB案であろうと必要なことだ。学童保育と児童館の関係などもいろいろあるだろう。単なる学童保育で終わらない児童館のよさなどもある。懇談会の報告書でそこまで踏み込む必要はないだろうが、今後、どちらにしても考えなければいけないことは、今後の進め方に対する課題として書いておくのだろう。
<b>(3) 改築の方向性について：B案（移転）へのチャレンジ</b>	
副議長	今後、議論しなければならないことはたくさんあるが、改築の方向性や今後の懇談会の進め方について、これを読んだ人がわかるような方向性があった方がよいと思う。今の案ではどちらでもいように書いてある。第1回懇談会でも言ったのだが、子どもの心と体と脳がバランスよく育っていくという成育環境としては、公園の近くに学校があるということは、非常に理想的なのではないかと思う。のびのびと過ごせる場所、外で遊ぶということが、今、児童にとって非常に大事になっている。校庭の空気汚染は冷暖房を完備してもカバーできない。いろいろ課題はあるが、学校施設としては生育環境を重視して考えたいという方向を少し明確に出した方がいいのではないかと。中学校の問題や学童保育の問題はこれから話し合えばよいが、今回のタイミングで企業用地を検討する方向にならなければ、タイミングを失ってしまい、A案になるということになるので、大きな方向性としては、検討するというをはっきりと出した方がいいのではないかと。思う。
議長	「改築の方向性」は、次の行動をどこから始めるかというものとして、今日、合意ができるとよいと思う。丁寧に議論したいと思うが、両案併記だと次の一歩が踏み出せない。ある種、チャレンジ的にB案の方向で少し議論を広げてみようという流れのまとめが出れば、区も働きかけられるし、中学校の方も受けられると思う。いろいろな案があるがどうかと言われても、中学校の方も次のステップに乗っていかない。一方、区がこうやるんだと言うには時期尚早だ。B案にチャレンジしてみて、いろいろ問題が大きいようであればA案に戻るとすることも十分可能だ。いろいろな課題も見えてきた中で、今年の輪をもう少し広げて議論を少し前に進めてみようという趣旨になっている方が、個人的にいいと思う。
委員	この懇談会の位置づけがある。あくまでも大まかな方向性ということが頭の奥に

	あり、なかなか思い切ったことが言えなかったところがある。B案は、東京都との話がありハードルが高いとは思いますが、チャレンジしてほしいと思う。前例がないからできないとか難しいということではなく、いい方向であれば向かっていきたいと考えている。私としてはB案で考えてもらえるとうれしい。
議長	前書きにある位置づけというのは、初回の頃に、いきなり結論は出ないだろうから、大きな方向性の議論をしようと言っていたことを確認しているだけだ。大まかでどちらにも読めるような話よりは、もう一步、次の時代に進んでみようという方向になれば、この前書きの書き方も変わってきてしかるべきだ。
副議長	可能性のある方を選んだ方が、今、学校に通わせている子どもたちの親としては判断がつかないというよりも、今後の子どもたちにこういうことを残してあげたいと考えた方が、委員の役割としてはいいのではないかな。
委員	せっかくやるのなら夢が持てる提言の方がよい。
議長	子どもの成育環境、今のいろいろな状況のタイミングからすると、そちらの検討を進めるべきであるというまとめの案を用意してもらい議論を進めることに賛成だ。むしろ、チャレンジしてみようと言わないと、すべてが止まってしまう、また膠着状態になる。いろいろ議論をしていろいろな案があったということでお蔵入りになってしまったら何の意味もない。移転ありきということではなく、課題を含んでいることを前提に、移転を正面から、また別の組織で、関係者も違った人にも加わってもらい、チャレンジしてみるのがよい。非常に困難が多いとか、企業用地が取得できないとか、A案で、これまで議論したことを無駄にしない現地建て替えという方向も残っている。B案を選んだからA案はないというわけではない。やや消極的な立場だが、ともかくチャレンジしてみた方がよい。
副議長	A案はチャレンジしなくてもできる。
議長	新しい子どもたちのための成育環境という魅力にチャレンジしようということだ。現在の場所では、今よりはよくなっても、やはりいろいろ問題が残ってしまう。
委員	ただ、公園利用について東京都との交渉が必要な分、杉小とは状況が違う。防災面など、一体的にした時のメリットで、東京都がほしがっているところと合致するところがいろいろあると思う。みすみす狭くなる所に行くというのが引くかかる。せっかく区画の整った広い校庭があるのに、環境はよくても狭いという部分で、気持ちとしては積極的になれないところが残る。いろいろなところから知恵を集めて、少しでも有利な条件で進められるとよいと思う。
<b>(4) 今後の取り組み方やその他の課題について</b>	
<b>(4) -①高井戸公園側の環境測定</b>	
委員	今の校地の環境汚染具合と、グラウンドの方との違いはわかるのだろうか。そういう数値があるとよい。
副議長	公園の方は測定していない。今は数値がないので、その数値が欲しいと言うと結論が言えないということになってしまう。そういう測定をしてほしいということ

	今後の対応として書いておけばよいだろう。杉十小が蚕糸の森公園に移転する時、環7から距離が離れるに従って空気汚染の度合いが全然違った。それははっきりしている。今度は距離が離れるから、環境としては抜群によくなると思う。
議長	いろいろな人に説明する時に、移転する先とどういう違いがあるのかと聞かれた場合、そういう資料も必要になってくる。来年度以降の検討に際して必要となるいろいろな検討課題の中に少し精査しておくとういだろう。
<b>(4) -②小中一貫校に関する検討</b>	
副議長	小中一貫校については、今も取り組んでいて、事例としてはこういうことがあるという事実を述べているだけで、今後の進め方になっていない。先事例があるわけなので、それらの経験を活かして、小中一貫校のよりよいあり方の検討も含めて考えてほしいとか、さらなる検討をしてほしいとか、もっといい関係を検討してほしいという話を書かないと、今後の進め方にならないように思う。
学校支援課長	新泉・和泉などのいいところを取り入れていった方がいいということか。
副議長	そうだ。さらに工夫も必要かも知れないので、いい検討ができると思う。
議長	B2案のところの表現も、富士見丘中学校も含めた検討の機会をつくり、理解を深め、意見を出し合っていくことが必要だというような書き方になるのだろう。今の文章では、一般的な一貫教育について議論するように読み取れてしまう。いろいろ課題はあるが、必要な人たちに必要な議論をしてもらいながら内容を深めていき、最終的な判断はいずれかの時点で行政と地元にしてもらえばよい。
<b>(4) -③懇談会報告書としてのとりまとめ方</b>	
副議長	今後の進め方のところで、考えをまとめる予定であるというのをおかしい。この懇談会で方向性を出さなくてはいけないのに、懇談会が終わった後に方向性をまとめるというのは、両論併記的でありすぎるのではないか。両論併記はA案になることを意味している。最初の文章はやめて、改築の方向性としてA案とB案の話を書いた後に、成育環境を大事にすることを重視したい、通学路や学区の課題がある、高井戸公園の東京都との交渉、中学校との協議をきちんとやってほしいといったことを、行政への投げかけとして、この場では明確に出しておく方が、この懇談会の役割としてはふさわしいように思う。
議長	「今後の進め方等について」は、あと1回の懇談会をどうするかという意味にも取れるし、来年以降どうするかという意味にも取られる。むしろ「次年度以降の取り組み方向について」というような見出しにして、この懇談会を第1次とすれば、第2次としてどういうことを議論するかを示す。中学校などのメンバーも含めてチャレンジしようという内側の問題もあるし、東京都との交渉をしっかりとってほしいとか、概要版をつくって広報を広げてほしいというようなこともあるだろう。このタイトルと中身を大幅に書き換えれば、まとめになっていくと思うし、次回の議論もしやすくなると思う。移転すると環境測定値がどうなるかという調査が必要だというような問題もそこで指摘しておいたらよいだろう。



<b>(5) 報告書の概要版について</b>	
議長	<p>まとめの報告書は最低限の資料も加えるとそれなりの厚みになるだろう。簡単には読めなくなるので、見開き4ページくらいの概要版みたいなものがあった方が便利なのではないか。P T Aを通じて全家庭に配布する、学校にたくさん積んでおく、町会で説明するなど、いろいろ役立つだろう。</p>
副議長	<p>それが中間まとめなのではないか。</p>
議長	<p>表現が硬い。もう少し色がついていると読みやすくなるだろう。そして、詳しくは報告書を見てもらうように誘導するようなイメージだ。</p>
学校教育担当部長	<p>大きな方向性が「移転」となれば、中学校の保護者にも説明しないといけない。その時には、コンパクトな概要版をつくって、議論に参加してもらうようにしていかなければいけないだろう。そういうものは当然必要になってくると思う。</p>
議長	<p>概要版をつくるのは、来年度、まとめを区がよく消化してからでよいだろう。</p>
<b>3. まとめ：次回に向けて</b>	
議長	<p>大きな流れとしては、両方の改築の考え方についてということで、図も含めてA案・B案を比較していき、その後に、改築の方向性というよりは今後の検討の方向性ということかも知れないが、子どもたちのよりよい成育・教育環境ということを中心とした時に、特にB2案には魅力があるので、その検討をさらに進めるというような書き方になっていくだろう。そのために克服しなければいけないいくつかの課題が述べられている。最後に、次年度以降の取り組みの方向性みたいところで、いろいろな意見を並べておくというような構成のたたき台になるのではないかな。</p> <p>また、3つの課題は当然あるが、富士見丘小学校の置かれてきた状況について、長らくの放5問題も含め、地域として遠距離で通いづらく、特に他区に流れてしまっている現状や、富士見ヶ丘通りの交通問題も長年の地元の課題であるとか、いろいろな前提条件のもとに、この3つの課題が出てきたというような流れで、今日の見解も含めて再整理してもらおうということだろう。</p> <p>その他にもいろいろつけ加えてもらって構わないが、事務局でまとめの案をつくる検討をお願いしたい。1ヶ月くらいの期間で検討してもらい、事前送付の上、2月下旬に最終回を開催し、中身を議論したい。</p>
事務局	<p>2月の中旬から3月の中旬にかけて区議会があるので、日程調整がなかなか難しい状況であり、日程再調整をお願いせざるを得ないこともあり得る。</p>
議長	<p>次回は2月28日(金)15時からとし、できるだけこの日程で開催するようにしたい。どうしてもという場合は、27日(木)としたい。資料を事前に読んでおいてもらいたいので、少なくとも24日に発送してもらえば、25日には入手できる。2日あれば目を通せるだろう。1週間前にもらっても2日前でも同じなので、懇談会の週の半ばには手元に届き、2日間くらいは読めるように進めてもらいたい。</p>